

2024年度 卒業時における学修成果に関するアンケート

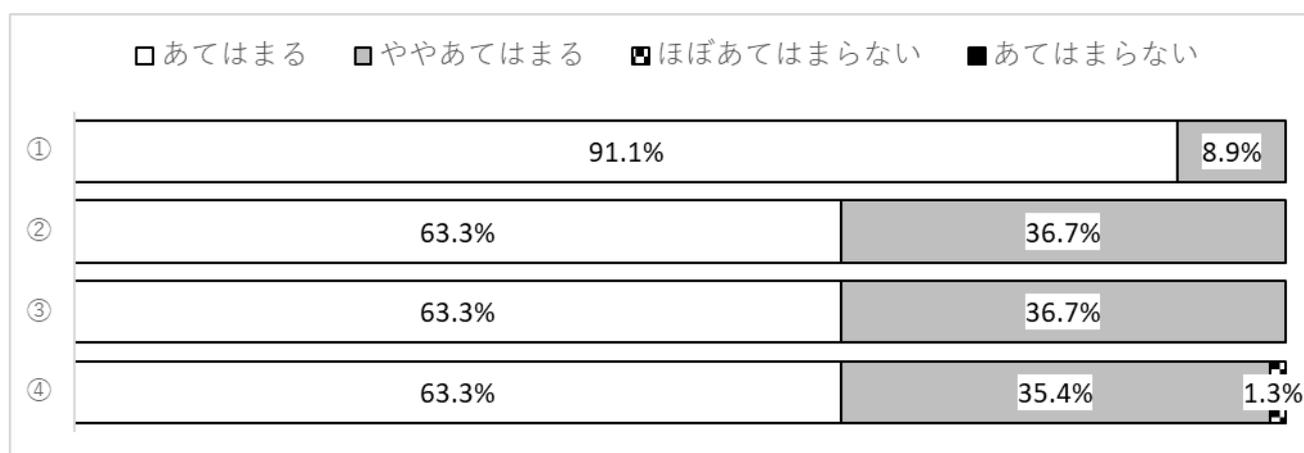
実施日：2025年1月

回答者：M6 79名（回答率79.8%）

1 各項目における自己評価

1.1 理念について

- ① 本学の理念である「智仁勇」について知っている
- ② 「智」すなわち医学的知識と技能を習得することのみならず、効果的な学修のためのアルゴリズムを獲得し、生涯にわたる自学自習を開始できる
- ③ 「仁」すなわち人を分け隔てなく、温かく受け入れる心を身につけ、国際的視野を持ち、人類に貢献する高い志を習得している
- ④ 「勇」すなわち科学的思考に基づいた判断力・問題解決能力を身につけ、修得した医学を実践する決断力を習得している

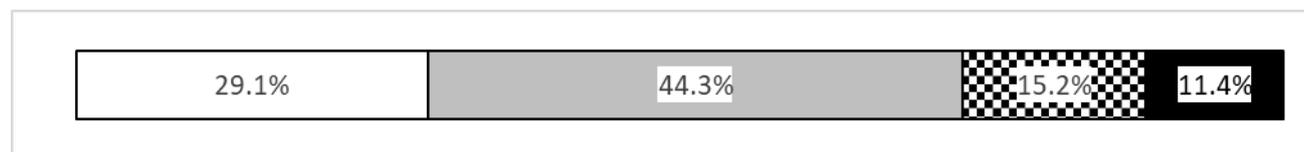


【カリキュラム評価委員会戦略部会からのコメント】

本学の理念が浸透し、いずれもしっかりと身につけて巣立つ学生が増加しており、喜ばしい結果だと考える。

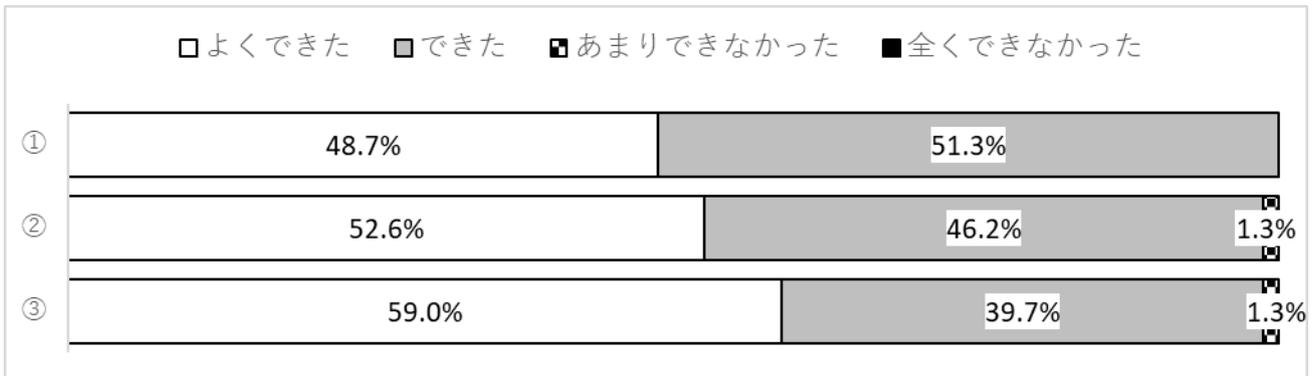
1.2 卒業時コンピテンスについて

本学の学習成果/卒業時コンピテンスについて知っている



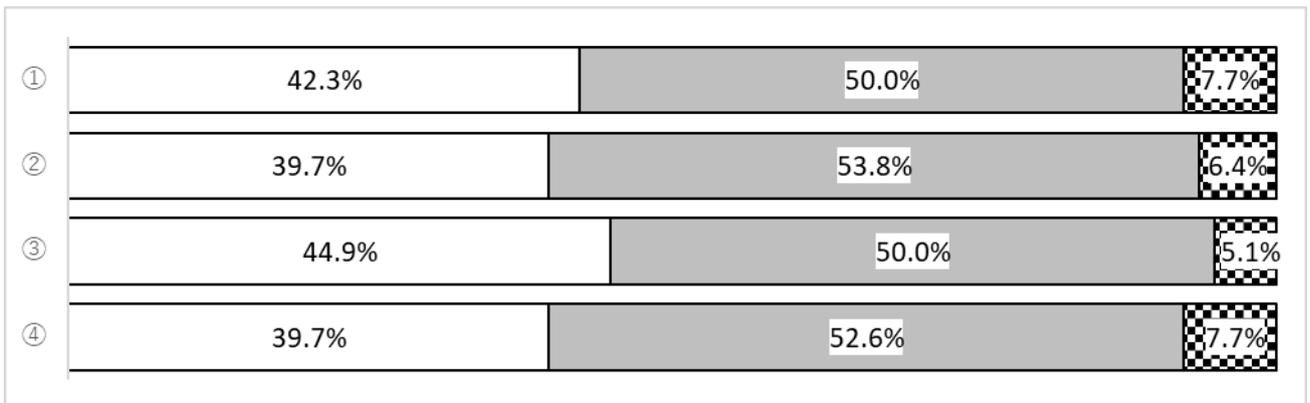
【プロフェッショナリズム】

- ① 患者および家族のニーズを認識し、患者中心の医療を提示、実践することができる
- ② 医療専門職として社会における自己の役割を理解し、継続的に学修することができる
- ③ 高いモラルを持ち、品性のある行動をとることができる



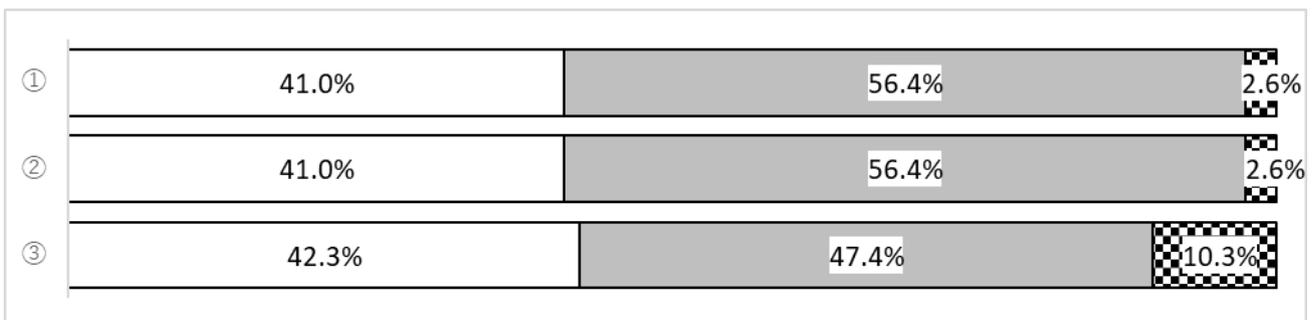
【医学知識と問題対応能力】

- ① 診療や研究の基盤となる基礎医学の領域の基礎的知識を修得し、応用することができる
- ② 診療や研究の基盤となる臨床医学の領域の基礎的知識を修得し、応用することができる
- ③ 診療や研究の基盤となる社会医学の領域の基礎的知識を修得し、応用することができる
- ④ 医療の基盤である生命科学、行動科学などの関連領域の知識と原則を理解し、医療の現場で実践することができる



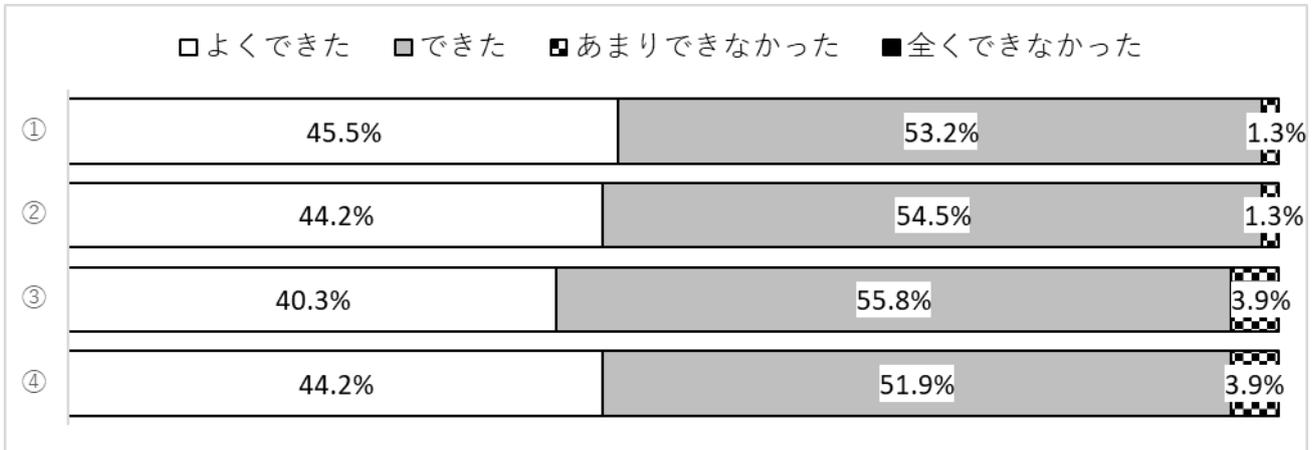
【診療技能と患者ケア】

- ① 論理的で体系的な医療面接、身体診察を行うことができる
- ② 頻度の高い疾患に関して、適切な鑑別診断と治療戦略を立てることができる
- ③ 基本的な臨床手技や緊急救命処置を安全に実践することができる



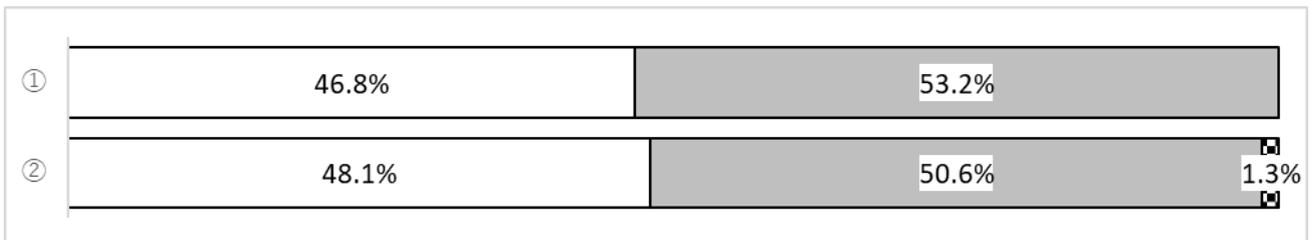
【コミュニケーション能力】

- ① 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援することができる
- ② 患者や家族の抱える問題を身体・心理・社会的側面から把握することができる
- ③ 適切な症例プレゼンテーションを行うことができる
- ④ 患者の状態について、報告・連絡・相談ができる



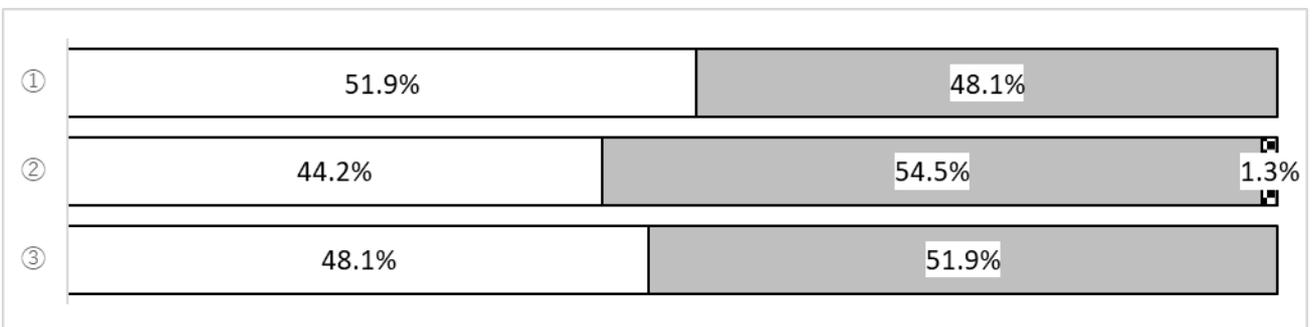
【チーム医療の実践】

- ① 医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する
- ② チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る



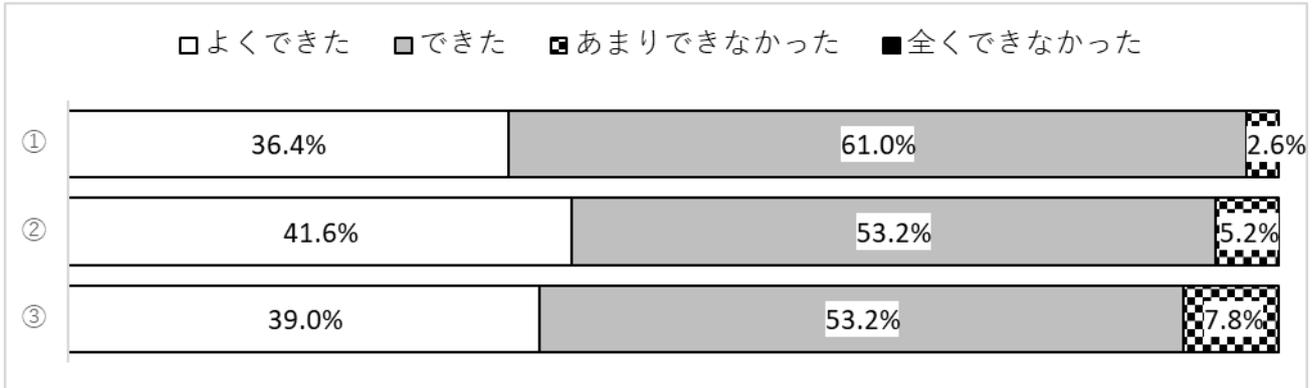
【医療の質と安全の管理】

- ① 医療の質と患者安全の重要性を理解する
- ② 医療事故等の予防と事後の対応を知る
- ③ 医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む）を理解し、自らの健康管理に努める



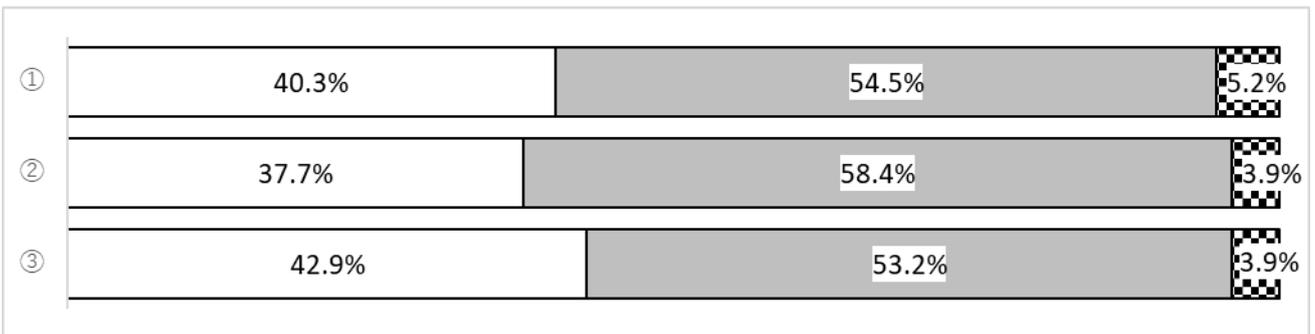
【社会における医療の実践と大阪住民の幸福に貢献する力】

- ① 保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する
- ② 大阪の地域医療に携わり、指導/監督のもと診療に参加できる
- ③ 大阪の医療の現状、課題を理解する



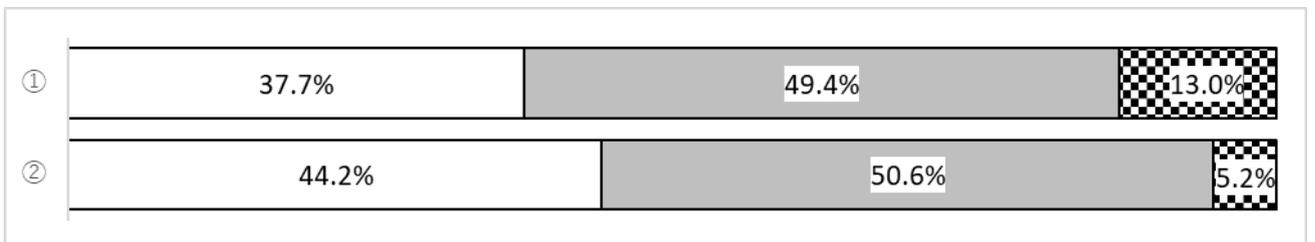
【科学的探究】

- ① 医学及び医療上の疑問点を挙げることができ、適切にエビデンスを収集できる
- ② 科学的研究方法を理解する
- ③ 研究の意義を理解し、参加、協力できる



【生涯にわたって共に学ぶ姿勢】

- ① 国際的な広い視野をもち、急速に変化・発展する医学知識を学び、吸収できる
- ② 同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあうことができる



1.3 総合評価

明日から、医師として働く自信がある



【カリキュラム評価委員会戦略部会からのコメント】

卒業時コンピテンスについてはさらなる周知が必要であると考えられるが、コンピテンシーを明示することにより獲得しなければならない知識や能力が明確化したことで、ほとんどの項目において向上が見られる。

一方、毎年2割ほどの学生は明日から医師として働く自信がないように見受けられ、対応が望まれる。

2 大学生活を振り返って

2.1 6年間の大学教育でもっともよかったと思うこと（複数回答のものを掲載）

- ・臨床実習が充実していたこと(28)
- ・尊敬する先生方や先輩後輩、共に勉強する同級生に恵まれ充実した学生生活を送れたこと(7)
- ・クラブ活動(5)
- ・実習や座学を通してたくさん学ぶことができた(4)
- ・実習の量や試験の難易度が適度でよかった(3)
- ・オンラインでの学習は自分のペースで進めることができ取り組みやすかった(3)
- ・部活動や授業、実習を通して様々な人と交流することができ、自分の未熟さを痛感し、礼儀や人との接し方を学び、人として成長することができた(2)
- ・特になし(2)

2.2 6年間の大学教育でもっとも改善すべきだと思うこと（複数回答のものを掲載）

- ・英語教育の機会が各学年であるといい(6)
- ・学生が自学自習するスペースが少ない(3)
- ・低学年の一般教養、基礎教育(2)
- ・基礎医学はもっと基礎から、絶対に覚えておいてほしいところだけにフォーカスして教えてほしい(2)
- ・基礎医学時点でもう少し臨床と関連付けて教えていただけると、なぜこれを覚える必要があるかを実感できてモチベーションが上がると思う(2)
- ・オンライン授業はあんまり良くなかった(2)
- ・特になし(41)

2.3 6年間の大学生活で何を得たか（複数回答のものを掲載）

- ・コミュニケーション能力(26)
- ・医学の知識(17)
- ・仲間・友人(15)
- ・医師になる覚悟、心得(7)
- ・協調性(5)
- ・自主性・自立性(4)
- ・人脈(3)
- ・学習の姿勢(3)
- ・手技(2)
- ・智仁勇(2)
- ・忍耐力(2)
- ・クラブ活動の大切さ(2)
- ・周りの人から学ぶ力(2)
- ・プロフェッショナリズム(2)
- ・患者さんや家族等に対する接し方(2)
- ・医師である前に社会人として正しい振る舞いをすべきであるという精神性(2)

【カリキュラム評価委員会戦略部会からのコメント】

半数以上が最も改善すべきこととして「特になし」と回答しており、大きな問題点はないと考える。昨年に引き続き英語教育が改善点の1位に挙がっている。社会の変化に合わせ、カリキュラムの変更を検討する必要がある。

3 目指す将来像（複数回答のものを掲載）

- ・信頼される医師(13)
- ・患者に寄り添える医師(13)
- ・良医(5)
- ・智仁勇を兼ね備えた医者(5)
- ・一生懸命頑張る人(2)
- ・人のことを思いやれる医師(2)
- ・後輩や学生の教育に熱心な医師(2)
- ・患者さんに安心感を与えられる医師(2)
- ・自分が診てもらいたいと思うような医師(2)
- ・患者さんにとって最善の方法を一緒に模索できる医師(2)